Japan Geoscience Union Meeting 2010
(May 23-28 2010 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2009. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HQR010-P09 会場:コンベンションホール 時間: 5月26日17:15-18:45

ドイツ北東部オーダーブルッフの最終氷期以降の地形変遷

Palaeo environmental Change after the last glaciation in Oderbruch, NE Germany

山本 隆太[1*], 久保 純子[2]

Ryuta Yamamoto[1*], Sumiko KUBO[2]

[1]早稲田大学大学院教育学研究科, [2]早稲田大学教育学部

[1]Graduate School of Education Waseda Univ, [2]School of Education, Waseda Univ

ドイツ北東部を流下するオーデル川(Oder)はドイツとポーランドの国境の一部を形成する国際河川で、その流域面積は118861km2、幹線流長はおよそ866kmの河川である。ドイツ北東部、オーダーブルッフと呼ばれる盆地状低地はオーデル川にヴァルテ川が流入する位置にある。その縁辺部は台地および丘陵地によって明瞭に縁取られている。このあたりは最終氷期にスカンジナビア氷床に覆われていた。オーダーブルッフ周縁の台地および丘陵は最終氷期に形成されたモレーンである一方、低地部の地形形成過程についてはあまり明らかにされていない。こうしたことから、低地部における完新世の地形変遷についての考察を行う必要がある。本研究では、主にオーダーブルッフ北部に着目し、写真判読によって作成した地形分類図と現地調査、ボーリングデータから完新世における地形変遷を明らかにした。

地形分類の結果、低地部の旧河道は形態的にアナストモージングを示していた。アナストモージングを示す旧河道においてボーリングステッキによる4mのコアサンプリングを行った。その結果、3,4mの泥炭質層の下に砂層が堆積していた。泥炭質層の最下層の^{14}C年代試料は5454±23 cal yr BPであり、その頃にオーデル川はアナストモージングからメアンダーへと河川形態を移行させたと考えられた。

キーワード:オーデル川,オーダーブルッフ,完新世,アナストモージング

Keywords: Oder River, Oderbruch, Holocene, Anastomosing